



～子育て家庭のみなさんへ～

感染拡大防止のための早期の措置に添って、みなさんの心がけや地道な我慢が功を成し、コロナ関連のヒヤッとしたことや、心配が続いたりした時期が過去のものとなりつつある良い兆しがうつつ見え隠れしているこのごろ。みなさんお元気ですか。

季節は、梅雨。カラッとした暑さに向かうための準備期でもあるこのシーズンには、過ぎにくさを自然と感じてしまいますよね。そんな時は、右記のような遊びを頭の中で楽しく想像してみてください。ちょっと楽しくなってきた、ちょっとスカッとしますよ。まずは、想像、想像！！

話はかわって、みなさんのお子さんは、乳幼児期にあるであろう「望み」や「不安」をその子ができる表現で何度もアピールされ、戸惑うことはありませんか。それは、返事で返したり、抱っこなどの行動で返したり……。それはそれは、とにかくいろいろの繰り返し。「何を求めているの?」「なんて言いたいのかな?」と首をかしげる方もいらっしゃるのではと想います。しかし、「不安⇒でも大丈夫」「不安⇒でも大丈夫」と守られる経験の繰り返しをしてもらうことで、お子さんの深い安心感に繋がっていくことを信じ、たくさんのこの繰り返しであなたの大事なお子さんをおかわいがってあげてくださいね。そして、よかったら、あなたのかわいいお子さんをお連れになって、センターに遊びにいらしてください。親子で遊べるお部屋の提供はもちろんですが、そのような、とてとても大変で、ご苦労な頑張りをしているあなたには、



「大丈夫!」と、よかったら、私たちにも寄り添わせてくださいね。お待ちしております☆

コロナを気にせず遊べる日が早くなりますように☆

ままごとコーナーのひとコマより

7月 いちい子育て支援センター 繋がる ～おたより～ 第4号

～手作りおもちゃの紹介～

マヨネーズやケチャップの容器を洗い、マスキングテープで模様をつけると...



水鉄砲の完成!



水を入れて、押しみよう!

的にはペットボトルや空き容器を再利用☆

～絵本の紹介～

『ノンタンおよぐのだいすき』より



☆保健師による保健コーナー☆

「夏のやけど」に注意しましょう!!

子どもたちは夏の暑さに負けず、元気いっぱい外遊びを楽しんでおられると思います。しかし、日差しが強くと気温が高くなるこれからの季節には、屋外での活動に夏ならではの危険が潜んでいます。その一つが「夏のやけど」です。

■夏のやけどの事例■

- ・日差しで滑り台が熱くなっていたため、お尻をやけどした
- ・炎天下で駐車していた車のチャイルドシートの金具が熱く、やけどしそうになった
- ・歩道で転んで手をついたとき、アスファルトが熱くなっていたため手が赤くなった
- ・水遊びのとき、素足で地面を歩いて、足の裏が赤くなった

■公園遊具やアスファルトでなぜやけど? ■

◆クイズ◆夏の滑り台、表面の温度は何度?

①約10℃ ②約30℃ ③約70℃ ➡答えは③約70℃

7月のよく晴れた日(気温 31.0℃、湿度 45%)の調査では、滑り台: 70.5℃、ベンチ: 58.1℃、地面: 69.6℃になっていたそうです。日差しで熱せられた遊具やアスファルトは、人の体温よりはるかに熱くなっていることがわかります。

※子供のやけどは、大人に比べ皮膚が薄いことなどから、重症化する傾向があります。外で遊ぶときは、熱中症対策はもちろん「夏のやけど」にも注意しましょう。

7月1回 健康相談 9:00～11:00 実施

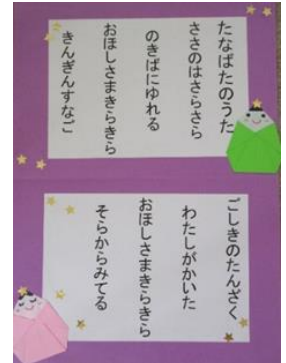
わからないことや悩んでいること等、どんなことでもOKです!

(詳しくはHPをご確認ください)

～作ってみよう♪～



～歌ってみよう♪～



～コロナ対策～

- ☆マスク着用
- ☆手洗い
- ☆換気
- ☆ソーシャルディスタンス
- ホッとなごんで心の健康

